

日本物理学会領域 2 役員会 議事録

日時: 2015 年 3 月 21 日 (土) 09:00-10:30

場所: 早稲田大学早稲田キャンパス BH 会場

司会: 領域 2 代表 齊藤輝雄

書記: 領域 2 役員 本多充、岡本敦

出席者: 齊藤、藤澤、藤田、本多、井戸、難波、岡本、成行、東口、菊池、上杉

報告事項

明日の領域 2 運営会議の資料について確認を行った。以下、スライドに基づく議論。

1. 2015 年 4 月からの新役員体制と役割分担の確認。
2. 2015 年 10 月からの新役員候補者について
3. 若手奨励賞 (第 9 回 (2015 年)) 受賞記念講演の案内。
4. 2015 年 3 月第 70 回年次大会講演数。
 - 今年会は 171 件の講演 (ビーム物理と合同の 30 件が入っており、若手賞講演は省かれている。)
 - 若手奨励賞に領域から推薦できる上限人数の基準に関して、他領域との合同の講演をどうカウントするのかがわからない。学会に確認する必要がある。
 - Plasma Conference 2014 では学会ごとの申し込みをしているから、領域 2 で申し込んだ人で集計できるはず。Plasma Conference 2011 ではそのようにした。
5. 登壇者の交代への対応。
 - 緊急の交代時には、領域代表の許可制から、領域運営委員もしくは座長の許可で可能に。後に領域代表に事後報告して追認 (2014 年 11 月 12 日に決定)。認められなければ、その講演はなかったことになる。(齊藤さん)
 - 年次大会は一人一回、秋季大会は一人三回以内の講演が可能だったはず。少なくとも昔は、通常の登壇者変更は大げさな手続きではなくて、領域代表の許可は要らず学会事務局への申請だけで良かった。講演題目は変更には許可が要る。
→ 齊藤が学会事務局に確認

登壇者の変更規制は、年次大会は一人一回、秋季大会は一人三回以内の講演が可能ということとは別問題とのこと。ほとんどの場合は問題ないが、勝手な登壇者変更がなされて問題が生じたことがあったそうで、一定の規制をするようにしたが、緊急に必要な場合まで、領域代表の許可を得るのは大変なので、領域運営委員ないし座長の暫定許可の扱いに変更したとのこと。

また、講演題目の変更は、プログラム編成に係わるので、当然事前許可が必要。

講演会場で変更はできないはず。

6. 講演概要集の電子媒体化について。
 - 座長くらいは自由にダウンロードさせてくれても良いのではとの意見があった。
 - 今のフォーマット紙版用で A4 に 4 件載せる様に作っているのに、A4 一枚で一件だとやたらと文字が大きく見えてしまう。
 - 素粒子などは概要提出率が悪いが、概要集という形でなく発表資料を別の所にアップロードするという文化のようである。
7. 学生優秀発表賞について、応募数など。
 - 応募総数 26 件。
 - 24 日 AP 会場にて審査。
8. 2015 年 秋季大会 招待・企画講演審議。
 - 招待講演（プラズマ乱流による非拡散的輸送：九大稲垣氏）とシンポジウム（高強度パワーレーザー及び X 線自由電子レーザーを活用したプラズマ科学の展望：阪大藤岡氏）に各一件提案があった。
 - 次から招待講演の提案フォーマットで論文を記入する欄がある。
 - 招待講演は、近年物理学会で発表された内容を中心にまとめられるものであるのが趣旨であるので、そのように助言したのち修正があった。
 - 趣旨説明する人（提案者）と登壇者の研究室が違えば、所属機関が被っていても問題ない。所属をもう少し深いレベルで書いて貰うように藤岡さんに依頼。
 - シンポジウムは休憩を入れて 3 時間半が上限。
9. APS/EPS 招待講演推薦手順の変更。
 - 3 学会 one voice 推薦の効果が出ていない。今回の EPS は 1 人採択。
 - APS に詳しい東大小野先生の話では、APS/EPS 側は事前セクションが行われたと見なして、気分を害しているかもしれないとのこと。
 - 3 学会で 3 名程度に絞って one voice 推薦することはやめる。むしろ、推薦人を準備できない人への手助けをするなど、日本からの応募を増やす努力をする。
 - 本来プラ核学会が単独で推薦していたものを、菊池さんが領域代表時に one voice 推薦となったわけだが、僅か数年で終わるのはいかなるものか。なぜ廃止について領域運営会議で議論されないのか。1 人でも採択されれば効果が出ていると言ってもいいのではないか。（菊池さん）
 - one voice 推薦枠に縛られずにたくさんの方が応募すれば、もう少し結果が変わっていたかもしれない。とにかく決定事項であるので、しばらくはこれで様子を見る。（斉藤さん）
10. 若手奨励賞選考の予想スケジュール。
 - 委員長は関連で前々代表が務める。
 - 6 月号に募集記事。締切は 7 月末日。8-9 月に審査、理事会に推薦。10 月の理事

会で受賞者決定。受賞者は第 71 回年次大会で受賞記念講演。

- 資格：物理学会員であること。受賞年度の 4 月 1 日（次回は 2016 年 4 月 1 日）で 39 歳以下。
11. 日本物理学会論文賞について。
 - 領域 2 からの推薦論文は受賞せず。JPSJ のプラズマ分野論文数が随分減少している。
 12. 日本学術会議インフォーマルミーティングの案内。
 - 3 月 22 日 12 時半-13 時半 AN 会場
 13. 拡大物性委員会の案内。
 - 3 月 22 日 18-20 時 AA 会場
 14. その他の案内。
 - 英語でのスライド作成が今後検討される予定。
 - 今回から、年次大会名の後に西暦が付け加えられるようになった。

以下、スライドに基づかない議論。

1. その他議論。
 - 招待講演やシンポジウム数が少ない気がする。海外（アジアなど）から優秀な研究者を呼んできて招待講演をして貰った方がいいのでは。
 - 一丸先生のチャンドラセカール賞受賞に関連するシンポジウムを次の年次大会に開催したい。
2. AAPPS-DPP と 領域 2 について（菊池さんより）。
 - AAPPS-DPP 会員へのメール配信を領域 2 のメーリングリストに配信する。個人情報保護の観点から、アドレスリストの提供よりは二重配信となる方が良いのではないか。明日、領域運営会議で諮る。
 - 領域代表・副代表が AAPPS-DPP 役員会にオブザーバー参加し議論のメールを送ってもらうかどうかについて、役員メーリングリスト（ML）で議論する。
 - 3 年の内 2 回の秋季大会を別開催（内 1 回は Plasma Conference）となると、会費収入の観点から理事会が難色を示すのではないか。
 - 領域 2 は事務局を持っていないので会議の主催などは困難。
 - 領域 2 の ML の勧誘は特にしていないので、学会参加者や学生に領域 2 の ML の周知をする。
 - 論文はレビュー論文誌なので、少なくとも若手にとっては JPSJ/PTEP とのバッティングの心配はない。

以上